

◆立命館大学産業社会学会
東日本大震災 連続フォーラム第3回



日時：2012年6月10日(日) 13:00~17:00

場所：立命館大学 衣笠キャンパス / 以学館 2号ホール

参加費：無料

◆震災から何を学ぶか —3.11 から見た日本社会—

災害に負けない社会をつくる



【基調講演】

福島県飯館村村長 菅野典雄氏

「おカネの世界」から
「いのちの世界」へ

■第1報告

京都市行財政局 防災危機管理室 担当課長補佐

阿部 恒世氏

「京都の底力 ~ 自主防災の歩みと今後について」

■第2報告

立命館大学 政策科学部教授 鐘ヶ江 秀彦氏

■第3報告

立命館大学 産業社会学部教授 坂田 謙司氏

「ポスト3.11の大学教育像」

■パネルディスカッション



立命館大学産業社会学部では、これまでの2回のフォーラムを通じて、この震災から、私たちは何を学ぶのかと問いかけ、その体験や調査研究を報告し、共有してきました。

第3回目今回は、基調講演として、福島県飯館村の菅野典雄村長をお招きして、「までい」の心、被災～避難～再建の取組に至るまでの飯館村の経験をお話いただきます。そして、京都市の自主防災や衣笠校区での取り組み、また、震災をふまえての東北諸大学の教育取組についても報告を予定しています。

飯館村の経験や身近な防災の取り組みから学びつつ、現代日本の産業構造の問題点や課題、さらには今後の社会をかたちづくる価値観をも視野に含めて、私たち学生、大学、市民は、いわば「自分ごと」として、災害に負けない社会のあり方をどのように考え、また、そうした社会づくりにどのように関わりうるのか、考えてみたいと思います。

主催：立命館大学産業社会学会

後援：京都市・立命館大学歴史都市防災研究センター

立命館大学サービスラーニングセンター・立命館災害復興支援室

問合せ：立命館大学産業社会学部事務局 075(465)8185